

事業計画書

| | |
|--------|---|
| 事業名 | 医療ケア児(障害児)ママの子育て支援 ～地域の仲間を知ろう～ |
| 実施場所 | 沼津市内(主にサンウェルぬまづ) |
| 実施予定期間 | ※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2021年4月1日 ～ 2022年3月31日 |

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい(事業の紹介などで使用します)。

医療的なケアを必要とする児(医療ケア児)のママは、健康管理に伴う処置と育児に追われ、他の何においても児を優先する生活を送っている。時間に追われ孤独で大変な育児の中でも、ママ自身がほっこりしたり、リラックスしたりできるような時間や仲間づくりを行いたい。医療者以外のネットワークを作ること、情報を共有したり育児環境を発信したり、住んでいる地域(自治体)や行政ともつながっていききたい。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか(事業を行うきっかけ(地域の問題点や課題、社会背景など)や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか)を記載して下さい。

1. 社会的背景と課題

医療的ケア児と呼ばれる人工呼吸器・吸引・経管栄養・胃ろう・ストマなどの管理を必要として退院する児の数は、2005年1万人前後がこの10年間で倍近い2万人を超えました。これは新生児医療の進歩が背景にあり、今後も増えていくことが予想されます。

医療ケア児の家族の情報源は、児の健康管理を優先するため医療機関が中心で、地域の情報を得る場が極端に少ない状況にあります。

現在、東部地区には医療ケア児に特化したネットワークはなく、医療ケア児を育てていく上での困り事が、医療機関の担当している少数にしか理解されていない現状があります。また、外出することが容易でない医療ケア児や家族は、地域(自治体)の行事に参加することも困難であり、地域との交流も希薄になっています。

医療ケア児は出産の背景が個々それぞれにあり、ママ自身の自責の念や医療不信など様々な理由から支援者を増やさず、家族単位で頑張ってしまう傾向もあります。

自宅と医療機関以外に外出する機会がない場合も多く、住んでいる地域での仲間づくりはしづらい状況にあります。現在のコロナ禍では更に難しくなっています。

中でも人工呼吸器や吸引を頻回に必要な児を抱える家族は、ママがひとときも離れることができない(簡単に外出できない)ため、母子分離できる機会も少ない状況にあります。

行政が実施しているリフレッシュ事業サービスも条件が合わず、気軽に利用できない現状もあります。

2. 課題解決のために必要だと考えること

自分の悩みや不安、負担になっていることを考える余裕がないママが多いため、気軽に話すことが出来る仲間づくり、お互いに情報交換できるようなネットワーク作りが必要です。その余裕や時間を作るためには、安心して母子分離できる環境や人手を確保する必要があります。仲間と共に医療ケア児の育児環境を発信していくことで、地域にも理解者や支援者を増やしていくことができるのではないかと考えます。

◎実施内容

| 日 程 | 実施項目・作業項目 |
|---------|---|
| 4月～5月 | <p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>1. 『オンライン de おしゃべり会(自己紹介・交流会)』 家庭環境や母の状態を知るためにとっても繊細な内容になるため、代表者とママとの1対1の対話。1回40分程度。 必要に応じて、看護師や保育士も参加したり児のケアを担当する。</p> |
| 6～7月 | <p>2. 『心配ごと、悩みごとの相談、気づきの会』(ニーズ把握) まず代表者が家族にすら話すことの出来なかった悩みや、人に指摘されて始めて心の負担に気が付いたことなどの経験談を話す。 その後、参加者に感想を聞きながら、本音の悩みを言いやすくする</p> |
| 8～9月 | <p>3. 『育児ケアで工夫していること、実際に利用している福祉グッズの紹介』(自慢大会・情報交換) 自宅での様子、実際に利用している福祉グッズの写真を撮ってきてもらい参加者同士で紹介し合う。参加人数に応じて1時間から2時間。</p> |
| 10月～11月 | <p>4. 『地域の他団体を知ろう パート1』 協力団体(案): “障害者しごとを考える母の会” “気切の会” “ゆずり葉” など (内容)団体の説明、活動実績、今後の展望について</p> |
| 12月～1月 | <p>5. 『地域の他団体を知ろう パート2』 協力団体(案): “沼津市肢体不自由児(者)を守る父母の会” (内容)団体の説明、活動実績、今後の展望について</p> |
| 2月～3月 | <p>6. 『親子の共同作業で名刺を作ってみよう♪』(ママの自身の自立) 協力団体(案): “障害者のしごとを考える母の会” (内容)・児に関わっている保育士・教員・看護師・リハビリ職などに協力してもらい作品づくり ・児の作品を使ってママが自分の名刺をデザインする</p> <p>※2～6は、母子分離スペースを作れるようパーテーションなどを使用する。児の見守りができるように看護師や保育士の付き添いを検討する。</p> <p>※2～6は、希望者に移動手段として介護タクシー体験を検討する</p> <p>※コロナの状況次第でオンライン開催に変更する</p> |

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。

1. ママ同士が地域の人々と関わる機会が増えることで医療ケア児のママの孤立を防ぐことができる
2. 東部地区にある他の障害児サークルや団体の活動を知り、医療ケア児でも利用できることやその活動の場を発掘していく
3. 仲間と共に医療ケア児の育児環境を発信していくことで、医療ケア児や家族に関わる人を地域に増やしていく

| | | | |
|------|--|-------------|--|
| 成果指標 | <p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。</p> <p>興味をもち連絡をくれた人数 企画に関わった人数</p> | 指標の 検証方法 | <p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。</p> <p>参加者からの感想 企画に関わった人からの感想 (アンケート)</p> |
|------|--|-------------|--|

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

| | |
|--------------------------|--|
| <p>公益性 ・ 必要性</p> | <p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。</p> <p>※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <p>医療ケア児とその家族は、児の健康状態の不安定さから外出することが簡単でなく、先々の見通しが持てないなど様々な不安を抱えています。医療ケア児と家族には、地域の医療施設や福祉サービスなどの情報共有できる仲間が必要です。悩みや不安を話したり、一緒に活動できる仲間が近くにできたらママ自身の励みになります。ママ自身の視野が広がれば孤立を防ぐこともできます。また、児にとっても関わる人が増えることは生活が豊かになっていきます。幼いうちから様々な人と触れ合うことはインクルージブ教育の一環であり、行動が制限されてしまう医療ケア児とその家族こそ、環境を整え多くの人と触れ合う機会を作っていく必要があります。</p> |
| <p>地域性</p> | <p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <p>周産期医療の基幹病院が市内にあり、医療ケア児と家族が増えていくことが予想されます。市内には医療機関以外に、在宅医療を支える訪問看護ステーションや福祉事業所があり、会の活動を発信する場が多くある。児を通じて様々な職種がつながるきっかけにもなる。</p> |
| <p>先導性</p> | <p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <p>現在東部地区に医療ケア児に特化した団体はありません。市内には基幹病院が2か所あり、小児医療には恵まれた環境で活動ができます。</p> <p>ママ自身の時間を作り出すために、看護師や保育士の同伴を児の状況に応じて検討します。介護タクシー利用体験も計画し、幼いうちから福祉サービスに触れる機会を作ります。</p> <p>コロナ禍でオンライン参加できる活動が増えているため、楽しめる場だけでなく、今まで参加できなかった勉強会や研修会なども参加手段が増えている可能性を発掘します。</p> |
| <p>発展性 ・ 継続性</p> | <p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。</p> <p>※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。</p> <p>医療ケア児の利用できる福祉サービスの発掘や拡大。 医療ケア児に関わる理解者・支援者を地域に増やす。</p> |
| <p>実現性 ・ 妥当性</p> | <p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。</p> <p>※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <p>オンラインやインターネットツールを活用する。 活動を支援する看護師と保育士が確保できている。 行政・医療機関・福祉事業所など第三者から紹介しやすくなるよう、会のリーフレット作成とイベント後にはサークル通信など広報物を作成する予定。</p> |

| | |
|-----------------|---|
| <p>活動に対する熱意</p> | <p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <p>私自身が医療ケア児の育児を10年続けています。現在は、様々な職種の方々がチームとなって、見守ってもらえているという安心感があります。振り返ってみると在宅を始めてから就学までの間は、医療機関や福祉サービスを利用していたものの自分で行動しながら、見つけて、輪を広げていきました。そのころは、家族にすら言えない不安や悩みを抱え、孤独や孤立を感じ、とても辛い時期でした。子供は家族が世話するのが当たり前、特に母親がみるのが当たり前という意識もあり、助けを求めることにも戸惑いがありました。今現在、辛い時期を過ごしているママ達の心が軽くなる手助けをすること、次の世代のママ達が気軽に地域との繋がりを持てるようにすることが、今までお世話になった周囲の方々への恩返しになる、恩返しをしたいと強く思っています。</p> <p>また、私も医療関係者との繋がり強いものの、地域の仲間との繋がり乏しいのが現状です。地域の仲間を増やし、お互いに助け合っていきながら、お互いが強く前向きになるような活動をしていきます。</p> <p>沼津という自然も豊かで、気候も人も温かい街が障害児とその家族にも安心して生活できる街になることを信じ、活動を続けていきます。</p> |
|-----------------|---|

◎次年度以降の活動予定

| |
|--|
| <p>※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。</p> <p>医療ケア児と家族が地域の人と活動できる場を増やすために、子育て支援イベントに見学に行き、主催者と交流を図る。また、地域との交流の場として、例えば、呼吸器を装着している児と家族が地域の防災訓練に参加するなど、支援者と手段を検討して参加できることがないか検討する。</p> |
|--|